自治労福島

自治労福島県本部機関紙

E-mail:jichou@jichiro-fukushima.or.jp

第785号
2017年(平成29年)
7月10日
福島市荒町1－21
自治労福島県本部
発行人 今野　泰

がんばろう福島

県本部2017労働学校

日時：8月4日(金)10:00
～5日(土)11:30
場所：福島市「ホテル福島グリーンパレス」
対象：若手単組役員、
単組青年部・女性部役員等

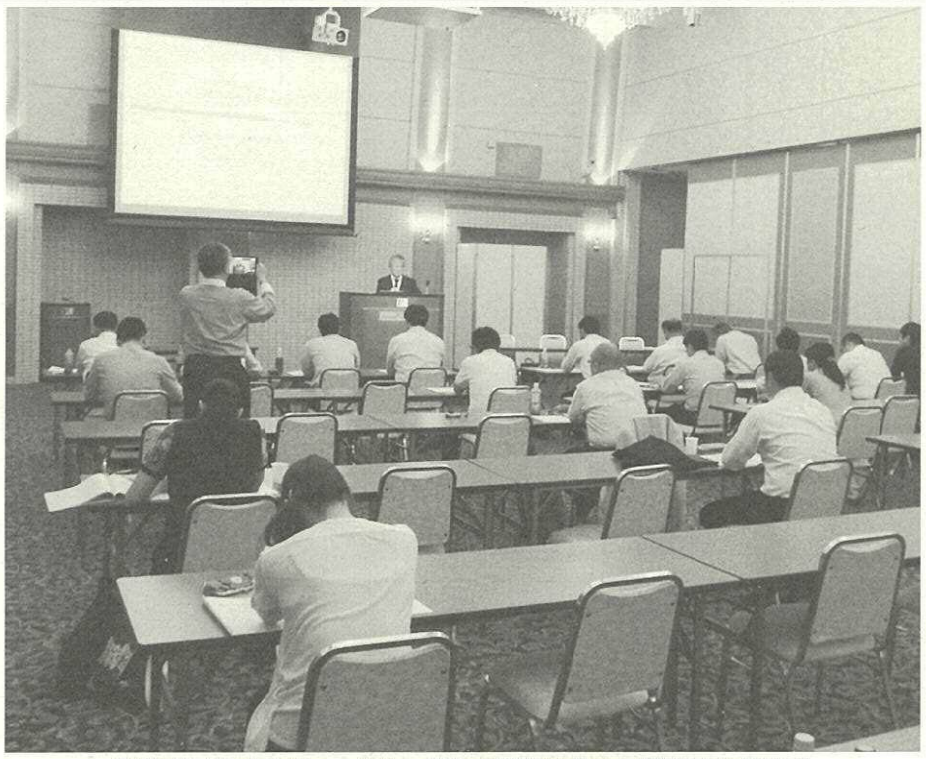
自治研

専門部会の運営方法を確認

県本部は自治研政策・闘争委員会、推進委員会、専門部会の合同会議を開催し、自治研アドバイザーとして自治総研　今井　照氏を委嘱するとともに専門部会の運営方法等について確認を行った。

県本部は6月28日(水)に、福島グリーンパレスにおいて第1回自治研政策・闘争委員会、自治研推進委員会、同専門部会の合同会議を開催した。冒頭、自治研アドバイザーの委嘱状交付を行った。自治研アドバイザーには、元福島大学教授で、今年4月から東京の自治労会館4階にある、公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員としてご活躍されている今井照氏を委嘱した。

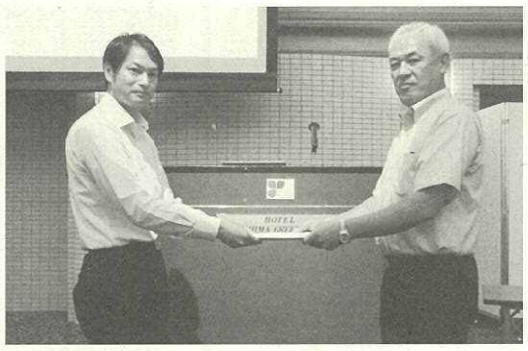
合同会議の後半では、アドバイザーである今井氏から専門部会のテーマに関する講演があった。この間、6月30日を最終集約日として3つの専門部会毎にテーマを設けて部会員の登録を行ってきた。第1専門部会のテーマは「少子高齢化と人口減少社会における自治体・地域のあり方」であり、今井氏からは「人口減少により、どう役所や市民生活が変わるのか？等について議論していくことになる。人口減少社会に伴い行政が変わっていかないのが問題」との話があった。第2専門部会のテーマ「地域産業のあり方とまちづくり」については、「一番難しいテーマ。6次化の多くは失敗し、成功事例も失敗との紙一重の状態。5年後10年後にこうなって、こんな問題が生じる。だから…という議論が必要」との話があった。第3専門部会のテーマ「医療と福祉の連携による安心な地域づくり」については、「役所が連携のコーディネーターとなる。地域の資源をどう組み合わせるのか、普段の業務ではあまりない調整役となる」というような話があった。また、専門部会における議論に際しては「何が問題なのか？問題を発見することが最大の課題。この問題発見までに十分に時間をかけることが重要」との話があった。



自治研アドバイザー　今井　照氏の講演を熱心に聴講する参加者

推進委員会から闘争委員会へ

バトンタッチ



志賀推進委員長(右)から提言書を受け取る
大和田副闘争委員長(左)

自治研合同会議において、自治研推進委員会の志賀委員長から、自治研政策・闘争委員会の大和田副委員長へ、提言書が手渡された。この提言書は、昨年6月開催の第17回地方自治研究福島県集会で提出された12本のレポートを基に、この間2回の推進委員会による議論と、メールによる意見集約等を経て作成したもの。

提言書の受領によりバトンタッチを受けた闘争委員会は、今後この提言書を基に今秋、県等の関係機関へ提出する予定の「2018～2019制度政策要求」の作成作業に着手することとなる。

提言書の内容は、①自治体行財政と住民ニーズを捉えた公共サービスについて、②県内の観光について、③県内の医療・福祉についての大きく3項目となっている。

専門部会員の再募集を確認

この間、6月16日を第一次集約日、6月30日を最終集約日として、専門部会員の募集を行ってきた。6月30日現在の登録者数は、第1専門部会が7名、第2専門部会が7名、第3専門部会が6名の計20名となっている。当初の目標は、3つの専門部会×15名程度＝45名程度としており、現時点で約半数の登録者となっている。

自治研合同会議において、これらの現状を説明し、専門部会員の募集を7月中旬まで継続することを確認した。併せて7月中に専門部会の全体会を開催し、改めて部会の運営方法や、各部会長・事務局長等の役職を決定し、活動を開始することも確認した。

専門部会員の再募集期間を7月21日(金)までとするので、ぜひ職場の仲間と一緒に登録をお願いするとともに、推進委員の皆さんにも積極的な登録をお願いしたい。

じちけん専門部会

メンバー再募集

現在、福島県地方自治研究所（自治労福島県本部内）では、自治研専門部会員のメンバーを再募集している。これは下記の3つのテーマについて、専門的見地や自由な立場で、調査・分析・研究を行っていくもので、最終的にはその成果を専門部会毎にレポートにまとめ、来年5月に開催予定の第18回地方自治研究福島県集会において発表してもらうこととなる。

メンバー登録の再募集期間は7月21日(金)となっている。ぜひ、あなたも県内の仲間と一緒に議論し、その成果を日常業務、そして組合活動に活かしていただきたい。

記

(1)　専門部会毎のテーマ

部会名	テーマ（詳細）
第1専門部会	少子高齢化と人口減少社会における自治体・地域のあり方
第2専門部会	地域産業のあり方とまちづくり
第3専門部会	医療と福祉の連携による安心な地域づくり

(2)　登録要件等

各テーマに精通している、興味がある、勉強したいなど、意欲のある方。（管理職や退職者は登録不可）

(3)　登録方法

各単組が集約し、まとめて登録する方法と、個人で登録する方法がある。個人で登録する場合は、E-mailにより単組名、連絡先（電話番号）、希望する専門部会番号（1～3）、氏名、職場名をメール本文に記載し、次のアドレスへ送信願いたい。

jichou@jichiro-fukushima.or.jp

当面の日程

7月18日(火)	県本部第13回中央執行委員会（相馬市・総合福祉センター）
	県本部第4回自治体議員連合会議（相馬市・同所）
7月19日(水)	県本部第1回選挙委員会　（相馬市・同所）
	県本部第100回中央委員会　（相馬市・同所）
7月20日(木)	連合福島政治政策フォーラム解散総会（福島市・ラコパふくしま）
7月21日(金)～22日(土)	東北地連町村職交流集会（青森市・ラ・プラス青い森）
7月25日(火)	2017人勧期7．25中央行動（東京都・日比谷野外音楽堂他）
7月26日(水)	県本部自治研闘争委員会（福島市・福島GP）
7月27日(木)	県本部男女平等集会　（福島市・同所）

第38回全日本自治体職員スポーツ大会福島県大会

（バレー）いわき市職連合　［優勝］　（野球）福島市職労

（優勝）いわき市職連合

（準優勝）楢葉町職労

（敢闘賞）
緒方 夏希 選手
（楢葉町職労）

（最優秀選手賞）
髙野 千尋 選手
（いわき市職連合）

第38回全日本自治体職員スポーツ大会福島県大会については、野球が6月14日（水）～15日（木）の日程で、福島市「信夫ケ丘球場」と「飯坂野球場」において、バレーボールが6月24日（土）～25日（日）の日程で、二本松市「城山総合体育館」と「城山第2体育館」において開催した。

野球は昨年と同じ10チームが出場し、準決勝第一試合は、福島市職が6対0で二本松市職を破り、第二試合は会津若松市職が20対4で会津美里町職を破った。決勝戦は7対0で福島市職が勝ち、昨年に引き続き優勝した。

一方、バレーボールについては、昨年より1チーム多い16チームが出場し、準決勝第一試合は、いわき市職連合がセットカウント2対0で福島市職を破り、第二試合は楢葉町職が2対0で国見町職を破った。決勝戦は2対0でいわき市職連合が勝ち、こちらも昨年に引き続き優勝した。

野球優勝の福島市職労チームとバレーボール優勝のいわき市職連合チームは、7月12日から山形で開催される東北地連スポーツ大会に参加する。特に今年は、バレーボールの全国大会の年であり、東北地連大会で優勝すれば、9月9日から那覇市で開催される全国大会へ出場することができる。ちなみに、いわき市職連合チームは昨年の東北地連大会で優勝している。東北地連大会に出場する2チームに対し県内全単組からの熱い声援を願いたい。

（優勝）福島市職労

（準優勝）会津若松市職労

（敢闘賞）
上杉 樹 選手
（会津若松市職労）

（最優秀選手賞）
五十嵐 剛 選手
（福島市職労）

歳時記

二十四節気の「夏至」の末候に「半夏生（はんげしょうず）」がある。カラスビシャクが生え始める頃が半夏生という雑節になっている。田植えを終わらせる、農事の節目とされている。新暦では7月の初めにあたる。

八坂神社の例祭で7月1日から一カ月も行われる祇園祭もあり、17日は前祭の最大の見せ場、山鉾巡行（やまほこじゅんこう）も行われる。

関東では料理屋の魚という印象の「はも」は、関西では日々の食卓に重宝される。「祭りはも」の別名も。

編集後記

さて、会津若松市と大熊町が共同で運営する情報メール配信サービス「あいべあ」というものがあります。自分も利用していますが、最近頻繁に防災情報メール「ツキノワグマ目撃情報」が入ります。「市内の○○で熊が目撃されたので注意して」というような内容です。今年は特に目撃情報が多いのですが、一説によると「山のドングリが豊作だった翌年は、メスが栄養を蓄えて子どもをたくさん産む。出産後は発情しないから、オスが余って行動範囲が広まる」とのこと。それで子熊を含め目撃情報が多くなっているというのです。不作の年も人里まで下りてくるという話もあり、真相は不明です。

団体生命共済

全労済 全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合

◆ 詳しくは組合までお問い合わせください。

ライフステージに合わせて、毎年保障を見直そう！

自分にはこの保障…あってるのかな……？という方も安心！団体生命共済なら、1年更新なので、
ライフスタイルに合わせて毎年保障を見直すことができるよ☆